

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

公表

事業所名	ライフエナジーチェェコロ		公表 令和7年 2月 28日		
	チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		活動ごとに部屋を分け、十分なスペースを設けている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	職員数は多めに配置することで手厚い支援を行うことができている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	切り替えしやすいよう構造化されている。定期的に安全点検することで安全な環境で過ごせるよう配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		1日3回掃除を行い、特に感染症対策としての消毒の徹底など清潔な空間を保つようにしている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		個室の部屋（スヌーズレン）が用意されており、落ち着ける空間として必要に応じ利用できるようになっている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		職員全体で振り返りを行う時間を設け、支援についての理解やその日に得た情報を共有できている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		保護者の意向を伺う機会を設けており、職員間で共有し今後改善すべき点を話し合っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	業務改善においての対策や具体的な案などそれぞれ意見を出し合いながら業務に努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9	実施していないが必要な状況にあれば検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		様々な分野での研修を受講できる機会が確保されている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		個々に合ったプログラムを担当者が作成し、支援内容や実施報告を行っている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		半年ごとに保護者からのアセスメントを行いニーズや意向をふまえ利用者に沿った支援計画になるようにしている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		自発管が作成した計画書を「個別会議」として職員間で確認し検討する機会を設けている。

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		個々の支援目標や支援内容について、職員間で確認しながら計画に沿った支援が行なえるようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		日常生活や5領域を含むフォーマルなアセスメントを実施している。専門機関での知能発達検査を実施された際は保護者の了承を得た上で情報共有させて頂いている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		個々に沿った支援内容になるよう、全ての項目が適切に設定された計画書を作成している。支援において必要な機関やサービスが参画した計画内容にしている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		日々の活動での様子や支援内容を話し合い、実施報告や評価などチームアプローチができています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		週や月ごとに活動プログラムを組み、5領域における担当者を中心に具体的なプログラムを考えている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		個別と集団の活動が個々のスケジュールに組み込まれていることで必要な支援が明確になっている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		朝礼で確認事項や支援内容を確認している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		丁寧に振り返りを行っている。意見を出し合い、改善に向けて具体的な対策や支援方法を話し合っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		療育記録用紙に沿って、個々の記録をしっかりとることで支援改善に繋げている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		見直しの期間をしっかりと定め、実行することができている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		主に児発管が参加している。日々の観察や支援状況を十分に情報収集し会議に参加している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		利用者に係る関係機関を把握し、情報共有の機会をつくり連携しながら支援を行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		スムーズな移行にむけ、情報共有と相互理解は重要と考えており、併用している利用先に対しては必要に応じ訪問している。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		移行前に、相談支援専門員と確認を取りながら情報共有を行っている。
		(28～30は、センターのみ回答)			

	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9		連携を図る機会が少ない為、機会があれば積極的に参加したい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	交流することが状況的に難しい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		送迎時、連絡帳、説明日など様々な機会に話を伺い、共通理解に繋げている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		お便りにて子育てに役立つ情報を発信し、相談があった際は関わり方や対策を提案している。事業所内での研修は難しいが、保護者向けの研修について随時ご案内している。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時に十分な理解が得られるよう丁寧に説明を行っている。不明な点があればその都度丁寧に対応している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		アセスメント等の情報から得た内容を踏まえて作成している。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		計画書の内容を丁寧に説明し、不明な点やご意見を伺い同意得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		様々な相談支援のサービスも利用していただきながら相談ごとには丁寧に対応するようにしている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		9	現状、希望される方が少ない為、開催には至っていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		申し入れの内容を職員間で周知し適切な対応ができるようにしている。問題解決に向け、具体的な対策や支援方法を話し合っている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		定期的なおたよりの発行とブログで活動の様子を発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		個人情報が含まれる書類に関しては施錠し保管している。

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		視覚的な物を含め、個々に合わせたコミュニケーションツールを使い意思が伝わるよう配慮している。保護者の方においては伝えやすい方法を選択できるようにしている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8	現状難しと思われる。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		迅速に対応できるよう、定期的に研修や訓練を行っている。ご家庭には「安全のための対応マニュアル」を配布している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		災害時の対応についてのマニュアルを作成し、発生時に備え必要な備品の確認や訓練を行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	1	予防接種は把握していない。服薬は看護職員の管理の基、職員間で周知。てんかん発作については保護者から定期的に確認を取り適切な対応ができるようにしている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	指示書が必要な子はいないが、アレルギー対応が必要な場合は保護者から確認しおやつ等の提供をしている。安全対策としてアレルギーに関するチェックシートの作成を検討している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全計画の作成、研修、訓練は定期的に行われている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		「安全教室」の実施と報告、「安全対応マニュアル」の配布を行っている。また緊急時の迅速な対応としてご家族には「緊急個人カード」の記載をお願いしている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		発生した際は、速やかに報告書を作成し再発防止のための話し合いを職員間で行っている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		定期的に研修を開催し虐待を防止するための意識を高めている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	1	いかなる状況においても行ってはならないと規定されている。